

**JIS 青銅合金
铸造用地金**

JIS H 2203
日本工業規格表示工場
製造元

ミカゲ金属工業(株)

三重県安芸郡安濃町字日暮 2222-2
電話 059-268-2206 (代)
FAX 059-268-1949

販売元
ミカゲ金属株式会社

大阪本部
大阪府中央区博労町3-6-7 三都ビル2階
電話 06-6244-3115 (代)
FAX 06-6244-3116

東大阪倉庫
東大阪市長堂 3-11-20
電話 06-6782-3115 (代)
FAX 06-6782-3143

**並銅・下銅
真鍮ドライ粉
アルミ・ステンレス**

現金買入れ

新賀金属

八尾市太田新町7丁目24

電話 072-949-9750

FAX 072-949-9462

日刊メタルレポート

株式会社 日刊金属新聞社

発行人 小林恒甫

本社 大阪市城東区蒲生 1-3-7
電話 (06) 6932-5443 代表

北陸支社 富山市曙町 1-30-508 号内
電話 (076) 444-6836

購読料 半年44,100円(前納) 3ヵ月22,050円

内需一服、九月は供給過剰か

輸入スクラップが大幅減少!



橋本健一郎氏

橋本金属 アルミ 橋本健一郎氏リポート②

〔概況〕八月前半、米GDPの速報値を好感する形でスタート。さらに欧州の経済指標の好調を受けLMEアルミは二、二〇〇ドルの大幅上昇のスタートとなった。しかし米住宅生産指数の悪化、七月の米雇用統計の予想以上の悪化を受けて下落。後半はユーロ圏鉱工業生産の悪化、米耐久財受注額の悪化、米の新設、中古とも販売件数が大幅下落したことからLMEアルミもさらに下落、八月三十日現在二、〇三〇ドル近辺。

【七月の経済指標】

◆自動車生産台数

日本自動車工業会発表によると自動車生産台数は前月比〇・七%増の八六万六、七六二台。

◆新設住宅着工戸数

国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比〇・一%増の六万八、七八五戸数であった(前年同期三・四%減)。(二面へ続く)

鉄鉱石価格、一〇三月期に上昇も

鉄鋼需要の回復で「アナリスト

英豪系資源大手BHPピリトンとリオ・ティントと鉄鋼各社は現在、十、十二月期の鉄鉱石価格を協議している。鉄鉱石価格は今年四月から四半期ごとの改定となり、それ以降で初の値下げとなる可能性がある。

ブラジルの同業バールは先週、中国の鉄鉱石のスポット価格が過去数カ月間、下落していることを背景に、十、十二月期の鉄鉱石価格を前期比一〇%引き下げる方針を示した。

DJカーマイケルの資源アナリスト、ジェームズ・ウィルソン氏は「多くの鉱山大手、特に豪州の会社は、鉄鉱石価格を一〇%引き下げたとしても、もうけは極めて大きい」と指摘した。

豪州の鉄鉱石生産コストはトン当たり三〇ドルだが、中国は一〇〇ドルに上る。

中国のトレーダー筋は、早ければ九月に鉄鉱石や鉄鋼需要が回復し、鉱山各社は一〇三月期の鉄鉱石価格の値上げを働きかける可能性があるという指摘。「誰もが九月十月に需要が回復すると期待している。鉄鋼価格が急騰すれば、鉄鉱石生産の大手三社(BHP、リオ、バール)が率先して一〇%の値下げに踏み切るとは思えないし、中国の鉄鋼会社も三社の要求をすんなり受け入れるかは疑問だ」と語った。

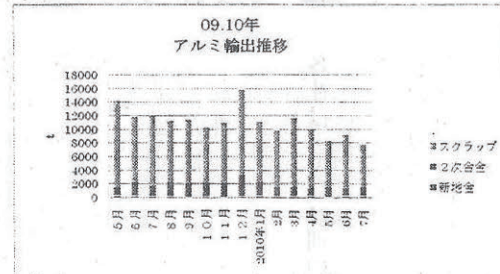
アルミスクラップ相場、下落へ

(二面より続く)

◆貿易指標

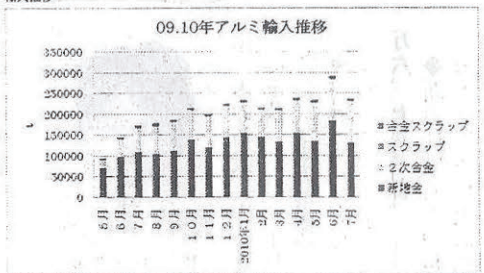
財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比七・六％増の二二六トン、二次合金は同六％増の一、一九四トン、スクラップは同一八・三％減の六、四〇〇トン。

	5月	6月	7月
輸出			
新地金	115 t	210 t	226 t
前月比	-49.4%	+82.6%	+7.6%
二次合金	1310 t	1126 t	1194 t
前月比	+21.2%	-14%	+6%
スクラップ	6838 t	7833 t	6400 t
前月比	-20.1%	+14.6%	-18.3%
輸出推移			

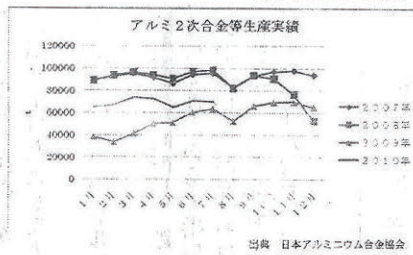
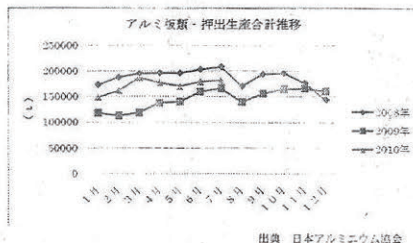


輸入は新地金が前月比二八・四％減の一三万二、四一〇トン、二次合金が一・一％減の九万七、八六〇トン、アルミスクラップは四七・二％減の六三二トン、二次合金原料としての需要が多い、合金スクラップは二六・四％減の五、五一〇トン。

	5月	6月	7月
輸入			
新地金	13万6009 t	18万5055 t	13万2410 t
前月比	-12.4%	+36%	-28.4%
二次合金	9万452 t	9万8902 t	9万7860 t
前月比	+18.2%	+9.3%	-1.1%
スクラップ	778 t	1196 t	632 t
前月比	-8.9%	+53.7%	-47.2%
合金スクラップ	7157 t	7491 t	5910 t
前月比	-2.7%	+4.7%	-26.4%
輸入推移			



四・三％増。
日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム二次合金・同合金地金等生産実績は、前月比〇・七％減の七万〇、八七五トンであった（前年同期四・八％増）。



【見通し】

七月は国内自動車生産台数が前月比〇・六％増と伸び悩み、二次合金生産も前月比〇・七％減の七万トン台と頭打ち。十月の国内自動車生産計画は九月までとは一転、二〇％減となった。
庄延・押出品生産数は前月比一・四％増と再び伸び悩み。新設住宅着工数は前月比〇・一％増の六万八、〇〇〇戸と伸び悩んでいる。

ファンダメンタルズについては、合金輸入塊は高値水準にあるが、円高により手当てがしやすくなったことや、夏季休業前のリスク売りからメーカー在庫は潤沢と予想される。輸出は内需の一服を背景に輸入はアルミスクラップが四七％減、合金スクラップが二六％減と大幅減少。
九月はうって変わって供給過剰が予測される。

LME価格については景気対策息切れによる米景気後退懸念が台頭しているが、二週間以内に新たな景気対策を発表するとの報から、多少の期待感もあり、九〇〇〇、一、一〇〇ドル台を予測。

価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては、十月の自動車生産が前月比で二〇％減の計画が立てられていることや、メーカーの在庫が潤沢にあるとみられ、九月は一転供給過剰になるとの思惑から八月後半価格から二〇円程度の下げ予測。

【七月の国内指標】

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば、板類・押出生産合計は前月比一・四％増の一八万二、二七〇トン（前年同期